

厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）  
分担研究報告書

社会への啓発活動と社会への教育のあり方に関する研究

研究分担者 朝居 朋子 藤田医科大学保健衛生学部看護学科 准教授  
研究協力者 佐藤 毅 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭

研究要旨：

生徒の思考を重視する授業実践として、移植医療を題材にした倫理的ジレンマの教材開発を行った。匿名の原則、募金と渡航移植、臓器売買、親族優先提供、オプトアウト制度をテーマにした授業案を作成した。今後は実際に授業を行い、生徒の反応を調べ、授業案の改正並びに横展開を検討する必要がある。

また、初等教育において移植医療を題材にした授業実践を参観した。当事者の体験談や臓器移植に関する基礎知識について学んだあと、双方向かつ参加型の授業が実践されていた。生徒が様々な価値観を知り、課題解決能力につながるような移植医療の教育実践が今後重要であると考えられた。

A. 研究目的

学校において、社会的判断力を育成する授業実践は重要である。価値観の多様化、多種多様な選択肢、自己決定・自己責任の重要性、グローバル化、またロシアのウクライナ侵攻など危うい情勢が世の中に満ちている。そのような厳しい環境下で生きぬくために、情報を収集し、正しく理解し、根拠を持って選択・判断する力が求められるのはいうまでもない。

移植医療を題材にした授業は、実際に行われており、2021年度大学入学共通テスト公民の現代社会で臓器移植が出題されたことから、基礎知識として修得すべきことになったと考える。教科書の内容に沿った知識伝達型の授業の後には、社会における課題を把握し、その解決に向けて自分の考えをまとめ、他者の考えを理解し、そのうえで選択・判断する力、さらに自分の考えの言語化できる力を育む必要がある。

移植医療は倫理的諸問題をはらみ、価値が不一致であり、価値的判断が分かれる。価値的判断とは、社会的な事象に対して、「善い・悪い」「望ましい・望ましくない」などというように、社会的な事象を価値的に評価する判断である(梅津正美, 2018)。すなわち、社会的価値の対立や葛藤が存在する臓器移植は、ジレンマ教材に適している。そこで、生徒の思考を

重視する授業実践として、令和4年度は移植医療の中でも倫理的ジレンマの1つである「匿名の原則」を題材に、中高一貫校の保健体育の時間を使い3年生に対し、授業実践を行なったところ、深い生徒の思索がフィードバックとして現れた。この実践を経験して、意見が分かれ決めかねる内容の教材の有効性を見出し、移植医療を題材に他の倫理的ジレンマの教材開発を行なうことが良いと考えた。

B. 研究方法

1. 令和4年度に作成した「匿名の原則」のほか、「募金と渡航移植」、「Happy-Happy (Win-Win) 理論(臓器売買)」、「オプトアウトへの制度変換」、「親族優先提供」を取り上げ、研究分担者・研究協力者で授業案を作成した。共通フォーマットを作成し、50分の授業と設定した。
2. 初等教育における移植医療を題材にした授業の参観を行った(関西大学初等部6年生、千葉県立東葛中学校3年生)。

C. 研究結果

1. 移植医療 倫理的ジレンマの授業案を以下に示す。

### 移植医療 倫理的ジレンマ 授業案


テーマ	匿名の原則 ～あなたは崩しますか？～
ここで取り上げる倫理的ジレンマ(具体的に書く)	<p style="text-align: center;"><b>【「匿名の原則」を崩すか維持するか】</b></p> <p>世界共通で移植医療において基本的に「匿名の原則」がある。ドナーとレシピエントは知り合うことはできない。その理由として主にリスクが3つある。①移植後すぐにレシピエントが亡くなってしまうと、もしかしてレシピエント家族がドナー家族を逆恨みする危険性②ドナー家族がレシピエントを追いかけます危険性③ドナー家族がレシピエントやレシピエント家族に対し金銭を要求する危険性である。</p> <p>サンクスレターという制度はあるが、ただ純粹に会ってレシピエントやレシピエント家族はドナーへの感謝の意を込めて、ドナー家族にお礼を言いたいケースもあるのではないか。「匿名の原則」を崩してまで両者を対面で会う機会を設けていいものか、それともこの「匿名の原則」を崩さずにいたらいいものかどちらでしょうか？</p>
授業の狙い(到達目標を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移植医療のストーリー展開からドナー・ドナー家族・レシピエント・レシピエント家族の気持ちを考える。</li> <li>● 自分が当事者になった場合、どのような希望があるか考える。</li> <li>● 社会の仕組みに対して、肯定なのか改善の余地があるか考える。</li> <li>● 生命倫理について考えを深める。</li> <li>● 死生観を深めるきっかけにする。</li> <li>● 時間数にゆとりがある場合は、崩す場合の対策について考える授業をするとより一層議論を深めることができる。</li> </ul>
授業実践における留意点と解説	<p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に関係者がいないか配慮する。事前にわかっている際は、授業内容をあらかじめ伝えておく。辛い際は保健室で休む選択肢を提示する。</li> <li>・受講者に対し、移植医療の歴史や現状等の基礎知識を事前に伝えておくことで議論が深まる。</li> <li>・インフォームド・コンセントや滑りやすい坂論等の生命倫理の基礎知識を伝えてから、議論させる必要がある。</li> </ul> <p>&lt;解説&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では1997年に「臓器移植法」が施行された。(2010年「改正臓器移植法」施行)</li> <li>・移植医療において、あげたい・あげたくない・もらいたい・もらいたくないという「4つの権利」というものがある。この権利はいつ決めても、変えても構わない。現在、意思表示カード・運転免許証・健康保険証・マイナンバーカード・インターネットからの5種類の意思表示方法がある。</li> <li>・アメリカやスペインをはじめ、世界中では年間数千から数万件の脳死下における移植が行われている。</li> <li>・日本では、25年間で脳死下における移植医療は、約800例の提供、約3,800件の移植が行われた。</li> </ul>

	<p>・現在、日本では(公社)日本臓器移植ネットワーク(JOT)を通して、個人情報伝わらないように配慮されて、「サクスレーター」という形で受け渡しが行われている。</p> <p>・近年、SNSの普及により、お互いが知り合ってしまう可能性が高まっていることが問題になっている。</p>	
授業の展開(50分)	学習内容	留意点
導入5分	<p>○移植医療とは？</p> <p>○ドナーとレシピエントとは？</p>	<p>●死生観について考える雰囲気作り</p> <p>●基礎知識の確認</p>
展開①15分	<p>○ドナーの気持ちA・ドナー家族の気持ちB・レシピエントの気持ちC・レシピエント家族の気持ちDを考える。</p> <p>○他者の意見を聴き、再考する。</p>	<p>●ワークシートを使用しながら進めるとよい。</p> <p>●A～D迄1分ずつ交互に行う。</p>
展開②10分	<p>○生命倫理とは？</p> <p>○インフォームド・コンセントや滑りやすい坂論を前提に考える。</p>	
展開③5分	<p>○匿名の原則とは</p>	
展開④5分	<p>○崩しているか維持すべきか</p>	<p>●2分ずつ発表</p>
展開⑤5分	<p>○意見交換をする。</p>	
まとめ5分	<p>○帰宅後に家族と会話し、現段階における自らの考えをもつように促す。</p>	<p>●後日、Webアンケートなどで意見を聴く機会があってもよい。</p>

- その他資料(スライド、ワークシートなど)

スライド例

5) まとめ

**<逆恨み>** 

レシピエントは

①嬉しい!!


②ドナーやドナー家族のためにもがんばろう!!

③あれ?具合が・・・

④レシやレシ家族は・・・

---

5) まとめ

**<金銭を要求>** 

ドナー家族は

①誰のおかげで生きていられるの?

②レシピエントへ  
レシピエント家族へ

ワークシート例

1) 「4つの権利+1」  
2) 「匿名の原則」  
3) ドナーの気持ち  
"  
"  
ドナー家族の気持ち  
"  
"  
レシピエントの気持ち  
"  
"  
レシピエント家族の気持ち  
"  
"  
4) どんな リスク・危険性  
"  
"  
"  
5) 一般的に考えられること  
①  
"  
"  
②  
"  
"  
③  
"  
"  
\*このままでいい or 崩してもよい  
対案は? "  
"  
"  
\*質疑応答の際に質問  
"  
"  
3年 組 番 氏名

移植医療 倫理的ジレンマ 授業案

<p>テーマ</p>	<p>募金について ～あなたは「〇〇ちゃん・2歳の渡航心臓移植」に募金しますか？～</p>
<p>ここで取り上げる倫理的ジレンマ(具体的に書く)</p>	<p><b>【あなたは募金をしますか？】</b> 駅前などで募金活動をしている場面に出会ったことがある。募金する人は、どのような気持ちで募金しているのだろうか。今回は小児の渡航心臓移の募金について考えてみる。 まず、世界の移植状況として、人口比でみると、移植先進国のアメリカやスペインが 100 万人あたり約 40 人なのに対して、日本は 0.62 人(2022年10月現在)。日本で移植が受けられる割合は約2%である。特に小児のドナーは少なく、自国で完結せず、海外に頼っている現状がある。次に、海外渡航する際の目標金額はどれくらいなのであろうか。2022年 11 月現在、約 5 億 4000 万円。また、どの国にもレシピエントは複数いて、待機患者がいることは事実だ。その中で、アメリカでは、「5%ルール」というものがある。それは、外国人患者への移植は、その施設が前年におこなった移植数(臓器ごと)の 5 パーセントを超えない中でおこなうというものである。一応受け入れの体制は開かれてものがある。 そして、レシピエントに目を向けてみると、ただでさえ、余命宣告されていて状況が厳しいのに、飛行機(例えばアメリカへは約 10 時間掛かる。約 10,000m 上空を飛び、機内の気圧は地上より低く、考え方としては、約 2,000m の山にいるのと同等と考えられている)、慣れない土地での生活というように何重ものリスクが伴う。 果たして、そこまで理解したうえで募金という行為を行っているのだろうか。</p>
<p>授業の狙い(到達目標を箇条書き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本における移植事情のうち、特に小児の海外渡航移植の現状について知り、考える。</li> <li>● 海外渡航移植ストーリー展開からレシピエント・レシピエント家族の気持ちを考える。</li> <li>● 自分が当事者(例えば結婚し、こどもが生まれ、そのこどもが2歳の時に移植が必要だと分かった。自分ならどうするか等)になった場合、どのような希望があるか考える。</li> <li>● 海外に行かなくても国内で完結できるような仕組みについて現在の問題を発見し、解決できることあるかどうか考える。</li> <li>● 生命倫理について考えを深める。</li> <li>● 死生観を深めるきっかけにする。</li> <li>● 一般的(ユニセフや赤い羽根共同募金)な募金とこの募金の違いについて考える。</li> <li>● そのものごとをあまり深く考えないで募金をするという行為と募金はずらずに社会のシステムを変えることにエネルギーを注ぐという行為の差についての考えを深めてもよい。</li> </ul>

<p>授業実践における留意点</p>	<p>&lt;留意点&gt;  募金の金額が多いか少ないか、経験があるかないかというような良い悪いではないことが前提で議論を進める。基本的(各国の状況は異なる場合もある)に臓器の売買は禁止されている。お金の内訳では、臓器自体には金額はついていないが、間接的にお金でやりとりしているのではないかという意見もある。</p> <p>&lt;解説&gt;  日本は 1997 年に臓器移植法が施行された。当時はドナーになる条件として、本人の生前の意思表示と家族の同意を必要とした。  2010 年 7 月に、臓器移植法は改正され、本人の意思が確認できなくても、家族の同意だけで臓器提供ができるようになった。また、15 歳未満の子どもからの臓器提供も可能になった。現在、6歳未満に限ると12年間で国内では 25 例(2022 年11月末現在)である。  渡航移植において、専用の航空機による渡航費と高額な医療費が必要で、その額は約 5 億 4000 万円(2022 年 11 月現在)。  2008 年に国際移植学会が渡航移植を原則禁止とした「イスタンブール宣言」を宣言した。WHO もそれを採択したルールで、倫理的な観点から、「移植において自国の命は自国で救うべき」という内容のものだ。</p> <p>&lt;参考資料&gt;  公益財団法人日本ユニセフ協会に寄せられた募金総額 約 237 億円(2021 年度)で、赤い羽根共同募金 約 170 億円(2021年度)である。</p>	
<p>授業の展開(50分)</p>	<p>学習内容</p>	<p>留意点</p>
<p>導入5分</p>	<p>○募金ってなんだろう？  ○今までどこで、どんな募金があったらろう？</p>	<p>●募金することはいいことだというわけではないことの確認  ●募金という題材を通して、小児のドナー不足や小児の海外渡航移植について考えるスタンスの確認</p>
<p>展開①10分   展開②10分   展開③10分   展開④5分</p>	<p>○世界の移植事情の確認   ○日本の小児のドナー不足問題   ○渡航のリスクとは？   ○本当の意味での社会貢献とは？</p>	<p>●アメリカやスペインの100万人あたりの人口比を日本と比べ、現状の紹介。また、イスタンブール宣言に触れる。  ●12年間の日本の小児の移植事情の確認  ●金額的な面・レシピエント側の考えられる諸課題について  ●社会全体にある社会貢献について目を向ける</p>
<p>まとめ10分</p>	<p>○本授業を通し、小児のドナー不足について考えてみよう。</p>	<p>●考えた結果、新たなシステムの構築でも、募金をすることでも認める雰囲気作り</p>

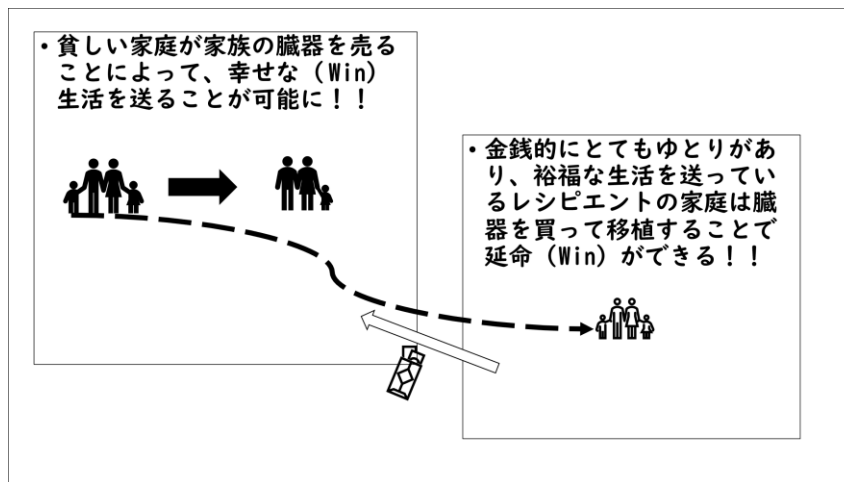
## 移植医療 倫理的ジレンマ 授業案

テーマ	win-win 理論? ~あなたはこの考えをどう思いますか? ~	
ここで取り上げる倫理的ジレンマ(具体的に書く)	<p style="text-align: center;">【「お互いの幸せ?」に賛成しますか?】</p> <p>日本において、臓器の売買は法律(「臓器の移植に関する法律」)によって禁じられている。しかし、禁止をしていない国もある。その価値観は世界各国によって様々なものがある。中には、子どもの人身取引、死刑囚からの移植、闇取引等のようなことが横行していることも実際にあるようだ。</p> <p>ある国では、貧しい家庭が家族の臓器を売ることによって生活費が入り、今より幸せに(win)なること⇔金銭的にゆとりがあり、裕福な生活を送っているレシピエントが臓器を買って移植することで延命ができる(win)ということが実際に起こっている。この関係を成り立たせていいのだろうか。</p>	
授業の狙い(到達目標を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臓器の売買に関して、海外で起こっている展開から世界の事情を考える。</li> <li>● 国際社会の仕組みに対して、改善の余地があるか考える。</li> <li>● 死生観を深めるきっかけにする。</li> <li>● お互いの利益について、生命倫理の観点を踏まえて考えを深める。</li> </ul>	
授業実践における留意点	<p>&lt;留意点&gt;</p> <p>本授業を行うまでに、移植医療の世界、日本の現状の基礎知識を頭に入れたうえで、本時を迎えるとよい。</p> <p>あくまでも白黒の結論を出すことが目的ではなく、いのちのこと、法律のこと、社会のことを多面的・多角的に考えることを前提とする。また、自らの生き方や考え方への成長を促すきっかけにこのストーリーを題材にしているというスタンスも事前に示すとよい。</p> <p>&lt;解説&gt;</p> <p>海外では、法律で臓器売買が禁止されていない国もあり、実際に様々な形で売買が行われている現状もある。WHO や国際移植学会も非難する声明を出しているが、なかなか改善しない。</p> <p>実際に日本人が関係し、海外での臓器売買が行われたケースもある。海外に行って臓器売買により移植を受けて帰国した場合、日本の臓器移植法により裁かれる。なお、正規のルートではない海外での移植は帰国後に診察・医療を受けられない場合もある。</p>	
授業の展開	学習内容	留意点
導入5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移植医療の確認</li> <li>○健康とは? お金とは?</li> <li>○幸せとはなんだろう?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移植医療の基礎知識の確認</li> <li>●生きていくために必要なものをいくつかあげてもらう。</li> </ul>
展開①10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療を受けるとき、代金が発生するけれど、移植医療の際、臓器に値段はついているだろうか?</li> <li>○売買の禁止の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本では善意に基づく無償の提供ということの確認</li> <li>●日本は法律で禁止されてい</li> </ul>

<p>展開②5分</p> <p>展開③15分</p> <p>展開④10分</p>	<p>○世界では禁止ではない国もある。</p> <p>○このストーリーの説明</p> <p>○闇の仲介業者も？</p> <p>○まず、自分の意見を考える</p> <p>○そして、他者の考えを聞く</p> <p>○議論</p> <p>○議論後に再考して現時点での自らの考えをまとめる</p>	<p>る確認(違反者は5年以下の懲役または500万円以下の罰金)</p> <p>●医療制度や価値観の違いの確認</p> <p>●スライド例</p> <p>●実際にあっせんをとりしきっている組織も実在することを伝える</p> <p>●7分ほど4～6名程度のグループで議論</p> <p>●3分間自ら再考する</p>
<p>まとめ5分</p>	<p>○本授業を通し、目的のためならその方法は何でもいいのか考え、自らの生き方や社会の在り方を考える。</p>	<p>●それぞれの考えを認める雰囲気作り</p>

● その他資料(スライド、ワークシートなど)

スライド例

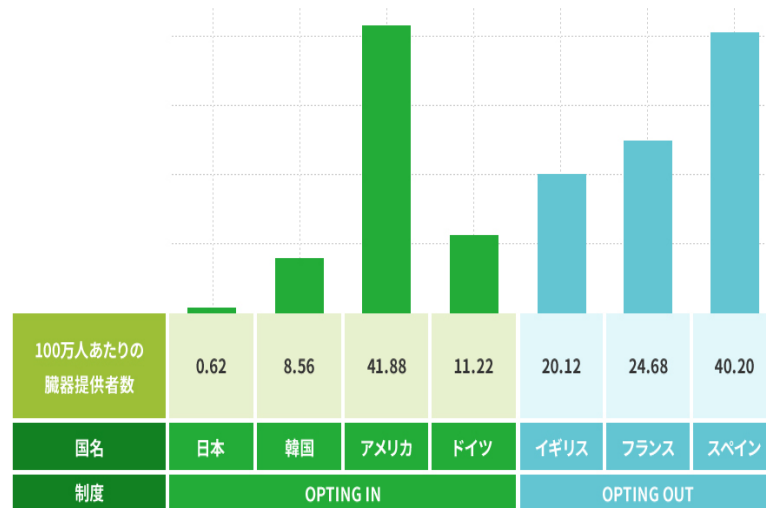


## 移植医療 倫理的ジレンマ 授業案

テーマ	オプトアウト
ここで取り上げる倫理的ジレンマ(具体的に書く)	<p style="text-align: center;"><b>【オプトアウト制度を日本に導入できるか】</b></p> <p>死後の臓器提供意思表示には、「オプトイン」と「オプトアウト」という2つの制度がある。オプトインは、アメリカ、ドイツ、韓国のように本人が生前、臓器提供の意思表示をしていた場合、または家族が臓器提供に同意した場合に臓器提供が行われる。一方、オプトアウトは、イギリスやフランス、スペインなどの本人が生前、臓器提供に反対の意思を残さない限り、臓器提供をするものとみなされる。いずれの制度も提供したい・したくないを強制するものではなく、デフォルト設定の違いである。しかし、前提として、提供しない意思の明確化に焦点があてられる場合、臓器提供することは当然であるという見えない圧力になる可能性が生じる。</p>
授業の狙い(到達目標を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臓器提供の意思表示の方式を理解する。</li> <li>● デフォルトの違いが人々の意思に与える影響を考える。</li> <li>● 日本の制度がオプトアウトに変わった場合を考える。</li> </ul>
授業実践における留意点と解説	<p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に関係者がいないか配慮する。事前にわかっている際は、授業内容をあらかじめ伝えておく。辛い際は保健室で休む選択肢を提示する。</li> <li>・受講者に対し、移植医療の歴史や現状等の基礎知識を事前に伝えておくと議論が深まる。</li> <li>・オプトアウトに対する賛否ではなく、制度設計とその影響を多面的に考えることが重要である。</li> </ul> <p>&lt;解説&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では1997年に「臓器移植法」が施行された。(2010年「改正臓器移植法」施行)</li> <li>・死後の臓器提供の承諾要件は、①本人の書面による意思表示＋家族の反対がないこと(実質的には承諾となる)、②意思が不明の場合(拒否の意思表示がある場合を除く)は家族の代理意思決定に委ねられる。</li> </ul>



・人口百万人当たりの臓器提供者数はオプトアウト制度の国の方が圧倒的に多い。イギリスは最近オプトアウトに変更した国だが、変更前の百万人当たりの臓器提供者数は10人程度だったのが、オプトアウト導入後は2倍となった(下記)。



出典：IRODaT(DTI Foundation)(2021年)

・臓器提供増加のために、オプトアウト制度に変更することは有効である。  
 ・制度の変更は、社会の注目を集める。日本でもオプトアウトに変更することで、臓器提供に対する関心が高まるきっかけとなるかもしれない。

授業の展開 (50分)	学習内容	留意点
導入5分	○移植医療とは？ ○臓器提供の意味と4つの権利+1とは？ ○オプトイン、オプトアウトの意味	●基礎知識の確認 ●課題の理解
展開①20分 展開②15分 展開③5分	○オプトイン、オプトアウトの比較(マトリクス表を使う)。 ○もし、日本の制度がオプトアウトに変わったら？どう思うか。 ○その理由は？ ○オプトイン派、オプトアウト派に分かれてディベートを実施。 ○今日の授業を受けての意見共有。	●数名発表、リフレクシオンシート使用もOK。
まとめ5分	○帰宅後に家族と会話し、現段階における自らの考えをもつように促す。	●後日、Webアンケートなどで意見を聴く機会があってもよい。

- その他資料(スライド、ワークシートなど)

マトリックス表 オプトイン、オプトアウトの比較

オプトイン			
項目	社会の受容	意思決定の容易さ	提供数への効果
オプトアウト			

## 移植医療 倫理的ジレンマ 授業案

テーマ	親族優先提供
ここで取り上げる倫理的ジレンマ(具体的に書く)	<p style="text-align: center;"><b>【親族優先提供。あなたならどうする？】</b></p> <p>日本は、世界でもまれな「親族優先提供」が認められている国である。改正臓器移植法施行により、配偶者・父母・子どもに対し死後に臓器を提供する意思表示ができるようになった。実現に至るには医学的条件や移植登録等厳しい条件があるが、法制度としては存在する。臓器移植法の基本理念の公平性と抵触するが、身内に臓器不全の患者がいたら助けたいと思う気持ちは自然である。その気持ちに応えるべく、改正臓器移植法で認められたが、実例に対しては社会の反応は必ずしも同調するものではない。法の理念、法制度の背景、当事者感情、社会の反応は、非常に複雑である。</p>
授業の狙い(到達目標を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 親族優先提供のルールがあることの意味を考える。</li> <li>● 自分が当事者になった場合(提供する側、移植を受ける側)、どう考えるか(当事者感情の理解)</li> <li>● この仕組みに対して、肯定なのか改善の余地があるか考える。</li> <li>● 臓器提供・移植の公平性について、考えを深める。</li> </ul>
授業実践における留意点と解説	<p>&lt;留意点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に関係者がいないか配慮する。事前にわかっている際は、授業内容をあらかじめ伝えておく。辛い際は保健室で休む選択肢を提示する。</li> <li>・受講者に対し、移植医療の歴史や現状等の基礎知識を事前に伝えておくこと議論が深まる。</li> <li>・親族優先提供の賛否ではなく、法の理念、法制度の背景、当事者感情、社会の反応について多面的に考えることが重要である。</li> </ul> <p>&lt;解説&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本では1997年に「臓器移植法」が施行された。(2010年「改正臓器移植法」施行)</li> <li>・旧臓器移植法下でルールがない中、当時の厚生労働省判断で、脳死臓器提供において親族優先提供(2腎を親族に移植。ほかの臓器移植はなし)が実際行われた。それに対し、社会的な批判的が生じ、法改正に委ねられることになった。</li> <li>・当時の国会の議論では、「臓器提供の意思表示に係る親族への優先提供について、公平性の確保という臓器移植法の基本理念に反するのではないかと意見に対しては、臓器移植を待っている身内の方がいる場合、その身内に臓器を提供したいという気持ちにも配慮すべきとの観点から、その範囲を親子と配偶者に限定しつつ、親族への優先提供を認めることとした」との答弁があった。</li> <li>・臓器移植法の公平性は、「医療にあつては、提供される臓器の数に限りがあるのに対して、移植を必要とする患者数はこれを大きく上回ることが予想されることから、臓器移植が万が一にも一部の者のため</li> </ul>

	<p>に、不公平に行なわれないよう慎重な配慮が必要である」とする公平性の考えを理念的に規定したものとされている。その枠組みの中でドナーの意思も尊重されるべきである。</p> <p>・臓器移植法の基本理念(移植医療の公平性)と、家族としての自然な心情を比較衡量する。</p> <p>・実際に行われた事例は、数例である。</p>	
授業の展開	学習内容	留意点
導入5分	<p>○移植医療とは？</p> <p>○ドナーとレシピエントとは？</p> <p>○移植医療の公正性とは？(臓器移植法の基本理念)</p>	<p>●基礎知識の確認</p> <p>●課題の理解</p>
展開①15分	<p>○自分が親族優先提供をしたいと思うか否かとその理由を考える</p> <p>○親族優先提供の当事者として、臓器を提供する立場、移植する立場の両方で考える</p> <p>○他者の意見を聴き、自分の考えを再考する。</p>	<p>●ワークシートを使用しながら進めるとよい。</p> <p>●グループディスカッション</p>
展開②15分	<p>○親族優先提供事例の新聞記事を見て、社会の反応とその理由を考える。</p> <p>○実際に親族優先提供をした家族、臓器を移植された家族の心情を想像する。</p>	
展開③10分	<p>○再度、親族優先提供のルールについて考える。</p> <p>○クラス内で考えを発表する。</p>	
まとめ5分	<p>○帰宅後に家族と会話し、現段階における自らの考えをもつように促す。</p>	<p>●後日、Webアンケートなどで意見を聴く機会があってもよい。</p>

- その他資料(スライド、ワークシートなど)  
親族優先提供事例の新聞記事





## 2. 初等教育における移植医療を題材にした授業

### (1) 関西大学初等部6年生60名

健康教育を1～6年次で1～2コマで行っている。

1年生:みんな大切な命(受精卵から誕生まで)、2年生:いのちのつながり(生命の尊重)、3年生:心と体の成長(二次性徴・心と体と脳の仕組み)、4年生:自他のいのちを守る(AEDの方法と実践)、5年生:自分のいのちを守る(薬物乱用防止教育)、最終学年である6年生では、いのちの終焉を考える(臓器移植と私の意思表示)。助産師や薬剤師等の外部講師も活用している。

2コマ目(1コマ50分)の1コマ目は、公益社団法人日本臓器移植ネットワーク(以下、JOT)の移植コースによる「いのちの授業～移植医療について～」であった。以下について説明された:JOTの概要、移植コーディネーターの業務内容、臓器移植の概要、データで見る日本の移植事情、意思表示、臓器提供後(レシピエントの生活の様子、サンクスレター)、JOT作成アニメ「つながるいのち」の視聴(<https://youtu.be/PPLC2iPuw0Y>)。生徒たちは興味津々で受講していた。



図1 生徒の受講の様子

2コマ目は、6年生の担任でもある国語教諭によるディスカッション形式の授業であった。この健康教育は養護教諭の担当科目であるが、慣れ親しんだ担任の方が良いとの判断で、国語教諭が進行を務めた。まず、臓器提供の意思表示について、1. Yes、2. No、3. Don't know の3択で確認した。普段から使用しているというシンキングツール(ボーン図)を使い、なぜそう思うかを各自記載した。

ないから提供しないへの変化も書かれている)

その後、近くの生徒同士、4～5名でディスカッションをした。自由にグループを移動しても良く、生徒は自由自在に意見交換をしていた。

生徒同士のディスカッションで、意見の変化が見られた。あるグループでは、ある生徒から「臓器ロス」(フードロスになぞらえて)という言葉が出た。「ドナ

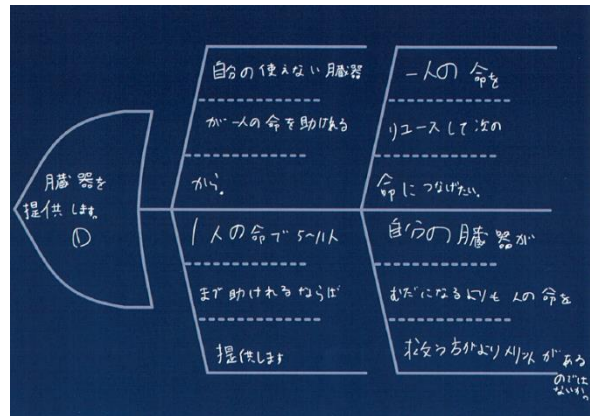


図2 臓器提供をする意思とその理由

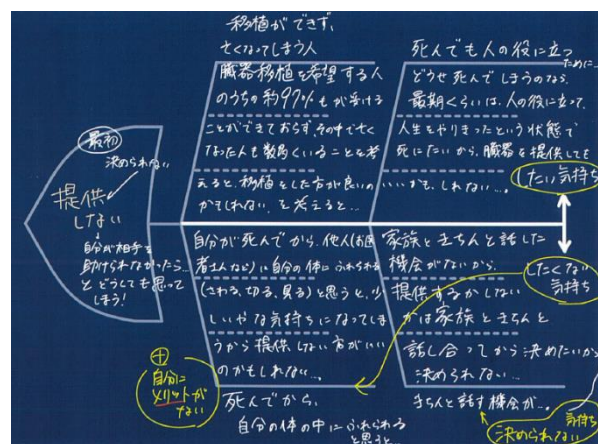


図3 臓器提供をしない意思とその理由(決められないに変化した)

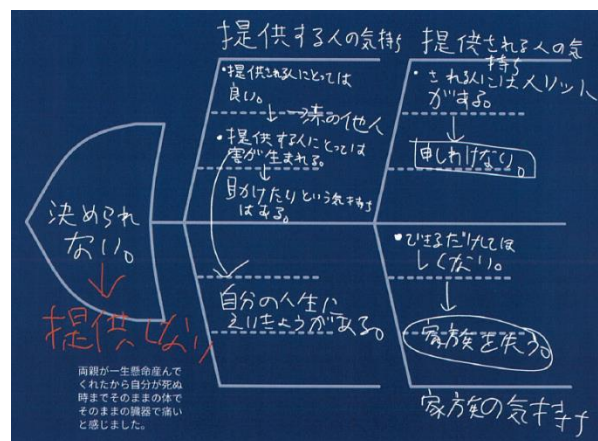


図4 決められないとその理由(ディスカッション後、提供しないに変化した)

一とレシピエント2人が死ぬより1人が生きる」という意見も出た。それを聞き、他の生徒も改めて自分の意見を思考していた。どの生徒も積極的に話し、他者の意見に耳を傾け、非常に活発なディスカッションが行われていた。



図5 ディスカッションの様子

最後に教員の進行でディスカッションが行われた。挙手をする生徒が非常に多かった。教員も生徒の意見から次の生徒の意見をつなぎ、丁寧に意見を拾っていた。ある生徒の違和感やつぶやきを見落とさず、拾い上げ、その生徒を当てて言語化させていた。出た意見を再度生徒に投げかけ、さらに考えさせていた。

## (2) 千葉県立東葛中学校3年生80名

6年間の中高一貫教育を行っている。今回は、英語の教員の指導のもと、授業が行われた。まず、国内で心臓移植を受けた男性の妻の手記(英語) (<https://www.jotnw.or.jp/note/detail.php?id=247>)

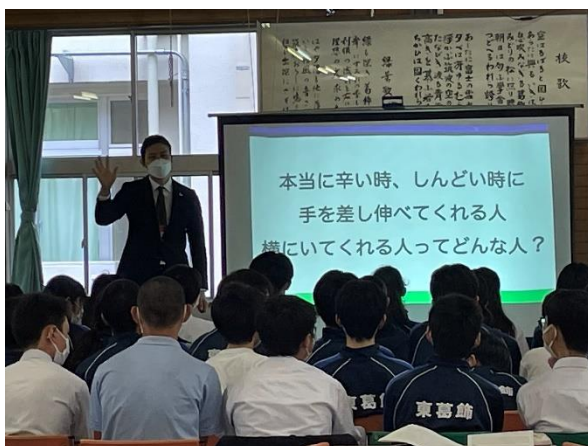


図6 心臓移植レシピエントの講演

を読み、グループでパートごとに読解シラスで共有した。その後、別日に心臓移植者とその妻による講演会が開催された。

心臓移植レシピエントは、発病、補助人工心臓装着、移植登録と待機、葛藤、家族とのやり取り、心臓移植とその後、現在の活動等について詳細に語った。

妻は英語で、家族としての思い、感謝の気持ち等をシンプルな英語で語った。



図7 妻の講演

その後、全体でディスカッションを行った。生徒からの質問もたくさん出て、「移植後にし好が変わったかどうか」「移植のお金は？」といった率直な質問も出た。夫妻の子どもも登場して会場を沸かせた。

中学生にとっては、心臓移植は身近な医療ではなかったが、当事者の生の声を聴き、深く考えるきっかけになっていた。



図8 夫妻と生徒のディスカッション



## D. 考察

### 1. 移植医療を題材にした倫理的ジレンマの教材

令和4年度の授業実践を通し、普段触れる機会が少ない倫理的ジレンマの話題について考え、自らの考えと他者の考えを共有する時間を持ち、活発な意見交換が行えた。意見共有は、生徒にとっては有意義であったことはフィードバックからも明らかである。

移植医療に対しては、人々の価値観や意見が分かれるからこそ、教材としては興味深い。正しい知識の修得の上に自分の意見の形成をし、他者と意見共有をすることでさらなる私見の醸成につながるといえる。

倫理的ジレンマを生徒に考えさせる際、いかに当事者の立場で考えさせるかがキーである。自分の住む世界とは関係のない遠い国のできごとではなく、自分にも家族にも起こりえることとして考えさせることが不可欠である。教材はそのことを意識して作成した。当事者として考えるような構成にした。また、各自の考えを他者と共有することも欠かせない。

令和4年度の授業後の生徒のフィードバックから、生徒の思考の深さ、他者の意見に耳を傾けること、しっかりとした心の変容が見てとれた。従って、今後は、今回作成した授業案を実際に行い、生徒の反応を見る必要がある。生徒たちが、様々な課題を発見し、そして解決に向けて自らの考えを持つことや、自己の生き方を考えることは非常に重要である。倫理的ジレンマの教材により、社会における課題を把握し、その解決に向けて自分の考えをまとめ、他者の考えを理解し、そのうえで選択・判断する力、さらに自分の考えの言語化できる力を育む必要がある。それにより、社会への啓発活動につながれると考える。

### 2. 初等教育における移植医療を題材にした授業

小学校、中学校の授業を参観し、最も感じたことは、生徒の関心の高さと意見の活性化であった。事前準備や教諭の進行の力量はあるが、移植医療自体が生徒にとって関心が高く、また各自が多様な意見を持つため、その共有が生徒にとって非常に魅力的であると考えている。シンキングツールを普

段から使っている生徒にとって、テーマが変わっても思考を深めることができる。小学生でも移植医療を題材にした授業実践が行えることが実証された。

また、最近の学校では、学外講師の受入れに積極的なため、JOTを通じてレシピエント等の当事者の紹介をしてもらったり、難しければ手記や動画を用いることもできる。しかし、当事者を目の前にして語りを聞き、ディスカッションをする機会は大変貴重である。また、当事者自身も移植医療の理解浸透のため、自分の体験を語りたいと思うこともある。それがうまくマッチングすることで、生徒にとって貴重な機会となる。

この貴重な機会を有効活用するには、事前課題や授業の積み重ねが欠かせない。加えて、教諭の進行力も必須である。当事者の体験談や基礎知識について学んだあと、双方向かつ参加型の授業を実践することで、生徒が様々な価値観を知り、課題解決能力につながるような移植医療の教育実践が今後重要であると考えられる。

## E. 結論

生徒の思考を重視する授業実践として、移植医療を題材にした倫理的ジレンマの教材開発を行った。匿名の原則、募金と渡航移植、臓器売買、親族優先提供、オプトアウト制度をテーマにした授業案を作成した。今後は実際に授業を行い、生徒の反応を調べ、授業案の改正並びに横展開を検討する必要がある。

また、初等教育において移植医療を題材にした授業実践を参観した。当事者の体験談や臓器移植に関する基礎知識について学んだあと、双方向かつ参加型の授業が実践されていた。生徒が様々な価値観を知り、課題解決能力につながるような移植医療の教育実践が今後重要であると考えられた。

## F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

## G. 研究発表

1. 論文発表  
なし



## 2. 学会発表

- ・朝居朋子,伊藤美保.«やさしい日本語»医療系学生向けプログラムの開発と実践. 第5回日本ヒューマンヘルスケア学会.オンライン.2022年9月
- ・朝居朋子,佐藤毅.臓器移植における倫理的ジレンマを題材にした授業実践報告. 第57回日本移植学会総会.名古屋.2022年10月
- ・杉元弥生, 朝居朋子, 明石優美, 剣持敬.レシピエント移植コーディネーターが抱える役割遂行上の困難に関する調査研究. 第57回日本移植学会総会.名古屋.2022年10月
- ・長谷川綾子, 朝居朋子, 田崎あゆみ, 中村小百合.脳死下臓器提供事例経験が病棟看護師の負担感に与える影響.第57回日本移植学会総会 .名古屋.2022年10月
- ・明石優美, 朝居朋子, 剣持敬.移植看護学創生～実践から,学問へ～臨床の現場から移植コーディネーション学へ 大学院教育の意義. 第57回日本移植学会総会.名古屋.2022年10月
- ・朝居朋子,市野直浩,小林正尚,前田圭介,渡哲郎,長谷陽太,松岡透,堀場文彰,古澤彰浩,西井一宏,中村小百合,三吉友美子,大槻眞嗣. 本学の専門職連携教育としてのアセンブリ教育における段階的・系統的な評価方法の構築に向けた取り組み. 第15回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会.オンライン.2022年11月

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3.その他

なし